

2024年度 事業計画書

2024年3月23日（評議員会）

2024年3月23日（理事会）

学校法人 神戸学院

2024 年度 予算編成方針

(2023.9.2 理事会承認)

学校法人 神戸学院
理事長 西本 誠實

2024 年度予算は、「学校法人神戸学院第 3 次中期行動計画」の基本方針である「法人の設置する各学校間の調和ある発展を目指す」という考えに基づき、編成することとします。同計画は「教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫県、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指す」ことを中期目標としております。「学校法人神戸学院中期行動計画」は、2012 年の法人創立 100 周年を機に実行され、5 か年ごとの計画をもとに単年度の目標を設定し PDCA サイクルを機能させながら、構成員一丸となって課題解決に邁進しているところであります。

これまでの経緯の中で、予算制度全般を見直し、予算編成方針策定手続き、予算会議のあり方に関して「学校法人神戸学院経理規則」を改正し、2020 年度の予算編成から予算会議を理事長が主宰する会議と位置づけ、法人の責任として主体的に取り組んで参りました。具体的には予算編成時並びに決算時の指針を経常収支差額比率・積立率の達成を明示し目標を明確にして進めてきたことは周知のとおりです。

本法人の予算計画は中期行動計画の下、法人が掲げた財務指標を常任理事会（2020 年 8 月 31 日）で決定し進めて参りました。今後も、臨時的な要因がある場合を除いて、少なくとも決算時には、5%を超える経常収支差額比率の確保を中長期的に維持していくことが必要であると考えております。

ところで、2024 年度については、大学部門において入学金改定による一時的な学生生徒等納付金収入の減少と、有瀬キャンパス再編整備に伴う 2 号館解体費用及び給水塔の移転費用等、臨時的な支出の増加により、単年度の収支悪化は避けられません。

このような状況にあっても、学生生徒確保に繋がる効果的な施策を実行するとともに、前述の有瀬キャンパス再編整備や情報インフラ整備等、必要な施設設備の更新・改善整備を進めていく必要があります。

以上を踏まえ、2024 年度予算は以下 2 項目を重点事業と位置づけ、配分・編成を行います。

- ① 学生生徒の確保に繋がる事業
- ② 教育環境整備に関する事業

(2024 年度における数値目標)

当初予算時：有瀬キャンパス再編整備に伴う 2 号館解体費用及び給水塔の移転費用の臨時的支出が見込まれることから、これら要因を除いた上で、経常収支差額比率を 1%とする。

決 算 時：臨時的要因をすべて踏まえた上で、経常収支差額比率を 2%とする。

※ 数値目標達成のため、各部門における既存事業の見直し、経費節減の徹底をこれまで以上に強く求めます。

以 上

2024年度 予算編成概要について

【神戸学院大学】

神戸学院大学
学長 中村 恵

2024年度予算書は、法人の予算編成方針を受けて2023年9月21日の大学評議会で承認された「2024年度予算編成方針」に基づき、「効率的な資金配分を通して、健全財政の維持、財政基盤の強化を図りながら、教育研究の充実に努めること」を目指し、基本方針を設定いたしました。

予算執行状況やその費用対効果について、予算・決算検証会議の検討結果等を反映しながら、事業計画の厳選や既存事業の見直し等を継続して事業活動収支の改善を図る一方、基本方針に基づいた重点項目への予算配分に努めました。

2024年4月からは、「神戸学院大学キャンパス整備基本計画2018-2028」に基づき、有瀬キャンパスでは、大学創立60周年の2026年竣工を目指して、1号館の建設に向けた建物の解体・建設工事が本格化します。工事期間中も有瀬キャンパスの修学環境が悪化しないよう十分な対策を講じて計画を進めていきたいと考えています。

初代学長である森茂樹博士は、運営上のモットーとして「後世に残る大学」を掲げています。本学が「後世に残る大学」であるために、「学生が成長を実感できる大学」、「学生の満足度の高い大学」、「受験生にとって魅力のある大学」であり、社会がどのように変わろうとも、「変化に対応し進化できる大学」でなければなりません。これを実現するため、教育環境の整備や教育力の向上とともに、研究活動のさらなる活性化及び地域連携の推進に重点的に取り組みます。

【2024年度基本方針】

(教育)

三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。

(学生支援)

学生の成長を支える総合的な学生支援を実施します。

(研究)

多様で優れた学術研究を奨励し、その成果を広く社会に還元するとともに、地域と連携した特色ある研究の拠点形成を推進します。

(社会貢献)

地域連携、産学官連携の強化により、広く社会に貢献し、大学の社会的責任を果たします。

(大学運営)

学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。

神戸学院大学は、「学生が大きく成長する大学であること」「就職に強い大学であること」「地域連携活動が盛んな大学であること」「社会に貢献する研究成果が数多く発表される大学であること」を本学の「教育・研究の成果」としてアピールし、社会から信頼され必要とされる存在価値の高い大学を目指して着実に前進することが求められています。そして、志願者数の確保のために「受験生にとって魅力のある大学」でなければなりません。その内容を具体化したのが重点項目(2)～(7)であり、これらは神戸学院大学の使命です。この使命を実現する手段として財政的な裏付けが必要であり、そのために重点項目(1)を掲げています。

【重点項目の内容】

(1) 志願者・入学者数の確保に向けた募集力の強化

すべての学部・部署、すべての教職員がそれぞれの立場で、募集力の強化について考え、実行する必要があります。具体的には、本学の強みや魅力を集約しステークホルダー、とりわけ高校生やその保護者にしっかりとアピールできる戦略的広報の推進、高大接続の強化、入試制度の見直し等に取り組みます。

(2) 学士力の向上と学位の質保証をめざした教育の充実

「教育の充実」なくして、学士力向上および学位の質保証はありません。学生が「学ぶことの楽しさ」を感じるよう、授業（講義・演習・実験等）の充実を図るべく体系的教育システムの構築、アクティブ・ラーニングの拡充、「高大接続プログラム」の推進等教育方法・教育成果を全学で共有し、教育の充実を促進します

全学教育推進機構により教育の質的向上を全学的に推進し、文系・理系10学部を擁する文理総合大学としての強みを発揮して学生を育成します。さらに、学部横断型の教育プログラムとして、既存の共通教育の発展とともに、医療・健康・福祉・心理系4学部6学科の学生を対象に資格専門職間の相互理解と協働をテーマにした「専門職連携教育プログラム（IPE）」、「神戸学院カレッジ」、「スポーツサイエンス・ユニット」の更なる充実を図ります。

また、「教育改革特別経費」によって、引き続き教育改革に積極的に取り組む教員に対し助成を行います。

(3) 学生のキャリア支援の推進

共通教育・専門教育と連動したキャリア教育の充実を図ります。学生の希望する卒業後の進路を実現するために、各種講座、ガイダンス体制・キャリアカウンセリング体制（既卒者含む）、各種セミナー、インターンシップ制度、企業訪問等をさ

らに強化します。

(4) 学生の満足度を高めるための大学環境の整備・充実

情報支援を含む教育環境の整備充実、厚生施設、体育施設、トイレ改修等、学生が日常の大学生活を送る環境、および課外活動を行う環境等をさらに充実させます。また、多様な問題を抱える学生への支援を目的として障がい学生支援室及び学生の未来センターにおいて広い視野を持った取り組みを充実させます。

(5) 研究活動の活性化および外部資金の獲得

「教育の充実」を図るためには、研究活動の裏付けが必要です。学内研究費の効率的・計画的な活用のみならず、科学研究費等の外部資金を獲得するための支援として2022年4月に改定した「個人配当教育・研究費」奨励金交付基準の効果を検証しながら、外部資金を広く獲得できるよう取り組みます。また、「神戸学院大学出版会」においては、2024年度にも数冊程度の研究書、テキスト等を発行できるように取り組みます。

(6) 産官学連携、地域連携および国際化の推進

教職員のみならず、学生も学外との交流により大きく成長します。大学として社会貢献および地域連携を重視します。

2017年度からスタートした総合型地域スポーツ・文化クラブの内容充実、「ボランティア活動支援室」を中心に展開する多様なボランティア活動、神戸マラソン応援プロジェクト、企業・自治体との連携プロジェクト等の更なる充実を図ります。また、2019年度に開設した神戸三宮サテライト（ミント神戸 17F）についてもその有効活用を推進します。

さらに、正式に発足した大学都市神戸産官学プラットフォームにおいては、神戸市や市内大学、産業界と連携して、大学等を超えた学生の新しい共創コミュニティネットワークの構築、社会人を対象としたリカレント教育、研究シーズの産学官による社会実装化等に取り組みます。

「国際化ビジョン」の策定とともに、国際交流にも力を注ぎ、国際的視野に立つグローバル人材の育成をめざします。グローバル・コミュニケーション学部の Semester 留学先の開拓を通じて多くの海外の大学との協定が実現し、他学部や国際交流センターでも海外の大学や研究機関との連携の動きが活発化し、協定先が増大していること、外国領事館等との関係も深まっていることを基礎に、今後も重要課題として国際化に積極的に取り組みます。

(7) 情報環境の整備

情報環境の一層の充実を図り、情報処理実習室・自習室の環境整備、学内ネットワークの機器更新・維持管理を計画的に行うとともに、今までより高度な情報支援

体制と連動しながら学生や教職員の利便性を向上させ、学内のDX化を推進します。

(8) 有瀬キャンパス再編整備

有瀬キャンパス再編整備に伴う 2 号館および給水塔の解体、給水塔機能の移転工事を経て、大学創立 60 周年を迎える 2026 年 4 月の供用開始を目指して 1 号館の建設工事を本格的に開始します。

本学は他の主要大学に比べると財政面では必ずしも盤石であるとは言えず、将来計画を考える上で財政基盤の強化は大きな課題です。2024 年度入学生から入学金を減額する一方、学生生徒納付金の増収を図りましたが、その効果が全面的に出るまでにはまだ時間がかかります。2024 年度においては、上述のとおり有瀬キャンパス 1 号館建設工事等重要な事業が開始されるとともに、諸々の物価上昇等にも対応していく必要があります。そのため、今後も事業計画の厳選や既存事業の見直し等は継続しながら、事業活動収支の改善、重点事業への予算配分の充実等、引き続きいっそうの経営努力を行っていきます。

以上のような概要を踏まえ、2024 年度予算を編成いたしました。

【神戸学院大学附属中学校・高等学校】

神戸学院大学附属中学校・高等学校

校長 西尾 勝

「中期行動計画(2013-2017)の間、2016年、ポートアイランドに高等学校新校舎を建設、移転し、2017年には、中学校の開校と、学校法人の決断により教育環境が大きく改善されました。そして、「第2次中期行動計(2018-2022)では、充実した施設設備を活用し、中高大連携教育の推進を図りました。

2023年度からスタートした「第3次中期行動計画(2023-2027)」では、基本方針を「第2次」と同様に、「建学の精神に基づき、知・徳・体の調和がとれた主体的に生きる力を備え、社会に貢献できる人材を育成します」とし、附属校の強みを活かした中高大連携教育をさらに強化し、中学校・高等学校の教育力の向上を図ります。そしてここに新たに策定された中期行動計画の実施内容を見据えた2024年度予算を編成しました。

教育は様々な問題を抱えながらも、常に新たな仕組みや特色ある教育活動の展開が社会から求められています。さらなる少子化が進む中、公立学校では多様な教育の仕組みや入学選抜方法を取り入れており、生徒を確保することが、今までにも増して厳しくなっています。

本校ならではの附属校の強みを生かした魅力ある私学教育を評価してもらうためには、常に変わり行く社会状況に応じた教育活動を念頭におき、時代にあった教育環境・教育方法を心がけ、効率的な予算執行をしていかなければなりません。

本校の特色である中高大連携教育をさらに推進する教育環境のあり方や教育方法のあり方を見据え、中学校・高等学校の更なる教育力の向上を図ります。そして、「生徒が行きたい学校・保護者が行かせたい学校」となり、大学と共に兵庫、神戸を代表する学校となることを目指します。

移転後は総じて高等学校の定員以上の入学生を迎え、中学も開校以来7年間は定員以上の入学者数を確保し、2023年度は1,000名を超える生徒数となっています。しかし、2024年度中学入試は、定員を大きく下回る厳しい結果となりました。次年度において、中学、高校ともに定員を超える入学生を確保するためには、多くの新たな取組みが必要となってきます。今まで取り組んできた教育活動の更なる充実や評価につながる仕組みをはじめ、教員の指導力向上につながる研修活動、本校を理解し評価していただく広報活動、そして、教育施設・設備への予算配分も考えておかなければなりません。

厳しい財務状況ではありますが、予算執行につきましては、節減に努めつつ、財政の健全化を図り、限られた財源を有効に配分することで、積極的で有効な投資となる予算を編成します。

2024 年度の予算編成方針

(教育)

- (1) 進学実績の向上を考えた授業の充実、補習の実施、検定試験支援等、よりきめ細やかな教育活動を展開する。
- (2) 一人一台のタブレットによる ICT 教育をさらに推進し、アクティブラーニングの視点での授業改善につなげる。
- (3) さらにネイティブ教員の活用、大学グローバル・コミュニケーション学部との連携、さらに海外教育機関との交流を活性化することにより、グローバル教育を推進する。
- (4) 中高大連携教育を推進する。従来の体験授業にとどまらない多面的な連携を組み立て、互いの教育活動の活性化につなげるとともに、探究授業における中高大連携の仕組みを完成させる。
- (5) 生徒の要望に応えることのできる施設の充実を図るとともに指導体制を点検し、課外活動を振興する。さらに中学校の課外活動の充実にも取り組み、高校の課外活動の活性化につなげる。
- (6) アクティブラーナーを有効に活用し、相互授業研究や研修を通して指導力の向上を図る。
- (7) スクールバス事業は、2024 年度末で終了するが、利用者の増加を図り、財政的な負担を少なくする。

(研修)

- ・指導力、授業力の向上のため研修活動を活性化する。校内校外での研修に積極的に参加し、校内研修の活性化につなげる。

(広報)

- ・高校志願者数ならびに中学志願者数の安定した確保に向け、さらに広報活動を充実させる。また、効率的な広報のあり方を検討し実践する。

〔I〕事業活動収支予算について

※ 千円未満は原則として四捨五入
 ※ 前年度は一次補正額を示す。

「事業活動収支計算書」は、当該年度の活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金組入額を控除したすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡状態を示すことで、経営状態の健全性を判断することができます。また、「経常収支」と「臨時収支」に区分して示すことで、法人としての経営状況をわかりやすくしています。

「経常収支」は、学校法人の本業となる教育研究活動に係る収支を示す「教育活動収支」と、資産運用等の財務活動や収益事業に係る活動の収支を示す「教育活動外収支」に分かれています。「臨時収支」は、資産売却差額、資産処分差額、施設設備に係る寄付金や補助金、現物寄付等を対象としており、「特別収支」として示しています。

なお、この計算書には学校法人会計特有の「基本金」に関する項目が含まれています。「基本金」は、学校法人会計基準第29条において、「学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする」と規定されています。

2024年度当初予算における学校法人神戸学院の事業活動収支見込は以下の通りです。

(単位：千円)

科目	2024年度	2023年度	増減
事業活動収入 計	17,638,845	18,073,373	△434,528
事業活動支出 計	18,201,268	17,553,111	648,157
基本金組入額合計	△1,733,967	△2,366,598	632,631
基本金組入前当年度収支差額	△562,423	520,262	△1,082,685
経常収支差額	△473,223	563,907	△1,037,130
教育活動収支差額	△968,637	30,309	△998,946
教育活動外収支差額	495,414	533,598	△38,184
特別収支差額	△12,700	32,855	△45,555

科目	2024年度	2023年度
教育活動収支差額比率	△5.7%	0.2%
経常収支差額比率	△2.7%	3.1%
事業活動収支差額比率	△3.2%	2.9%

《教育活動収支について》

教育活動収支差額は前年度より 998,946 千円減の△968,637 千円を見込んでいます。
金額が大きい科目に関する説明は以下の通りです。

(事業活動収入の部)

・学生生徒等納付金 (13,981,733 千円)

学生数は前年度と比べ、大学では入学定員 (2,560 人) の 1.02 倍の新入生数を前提として 240 人減の 11,117 人 (大学院生含む)、高校では 260 人の入学者 (うち、内部進学予定者 65 人) を見込み 73 人減の 810 人、中学校では 60 人の入学者を見込み、22 人減の 196 人を見込んでいます。前年度より 325,071 千円 (2.3%) の減収見込となります。経常収入の 79.4% を占めています。

・手数料 (340,230 千円)

私立大学全体の定員厳格化に加え、出願動向の変化もあり、入学者の確保は年々厳しさを増していますが、効果的な広報活動を展開して、受験生の確保を目指します。高校においては、例年並みの受験者数を見込んでいますが、中学においては前年度より 50 人減の 150 人を見込んでいます。前年度より 49,100 千円 (12.6%) の減収見込となります。経常収入の 1.9% を占めています。

・寄付金 (60,000 千円)

前年度より 30,000 千円 (100.0%) の増収見込となります。経常収入の 0.3% を占めています。

・経常費等補助金 (2,275,085 千円)

大学における私立大学等経常費補助金として 1,081,825 千円、授業料等減免費交付金として 900,000 千円、中高における兵庫県私立学校経常費補助金等として 288,260 千円を見込んでいます。前年度より 48,783 千円 (2.2%) の増収見込となります。経常収入の 12.9% を占めています。

(事業活動支出の部)

・人件費 (9,392,233 千円)

前年度より 32,225 千円 (0.3%) の支出減を見込んでいます。なお、経常収入に占める割合 (=人件費比率) は、53.4% です。

・教育研究経費 (7,608,386 千円)

前年度より 495,086 千円 (7.0%) の支出増を見込んでいます。経常収入の 43.2% を占めています。なお、各部門における重点項目事業への予算配分については、11ペ

ージから15ページに記載しています。

・管理経費（1,049,620千円）

前年度より163,022千円（18.4%）の支出増を見込んでいます。経常収入の6.0%を占めています。

《教育活動外収支について》

教育活動外収支差額は、前年度より38,184千円減の495,414千円を見込んでいます。各科目に関する説明は以下の通りです。

（事業活動収入の部）

・受取利息・配当金（521,943千円）

金利や為替等の先行きが不透明な状況下ではありますが、現在保有している金融商品の利率を元に算出した結果、前年度と比較すると52,910千円（9.2%）の減収見込となっています。経常収入の3.0%を占めています。

（事業活動支出の部）

・借入金等利息（26,529千円）

前年度より14,726千円の支出減を見込んでいます。経常収入の0.2%を占めています。

《経常収支について》

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は、前年度より1,037,130千円減の△473,223千円を見込んでいます。

《特別収支について》

特別収支差額は前年度より45,555千円減の△12,700千円を見込んでいます。

〔Ⅱ〕 おもな重点事業

◎印……新規・臨時事業（一部経常経費を含む事業あり）、○印……内容を充実した事業

【大学】

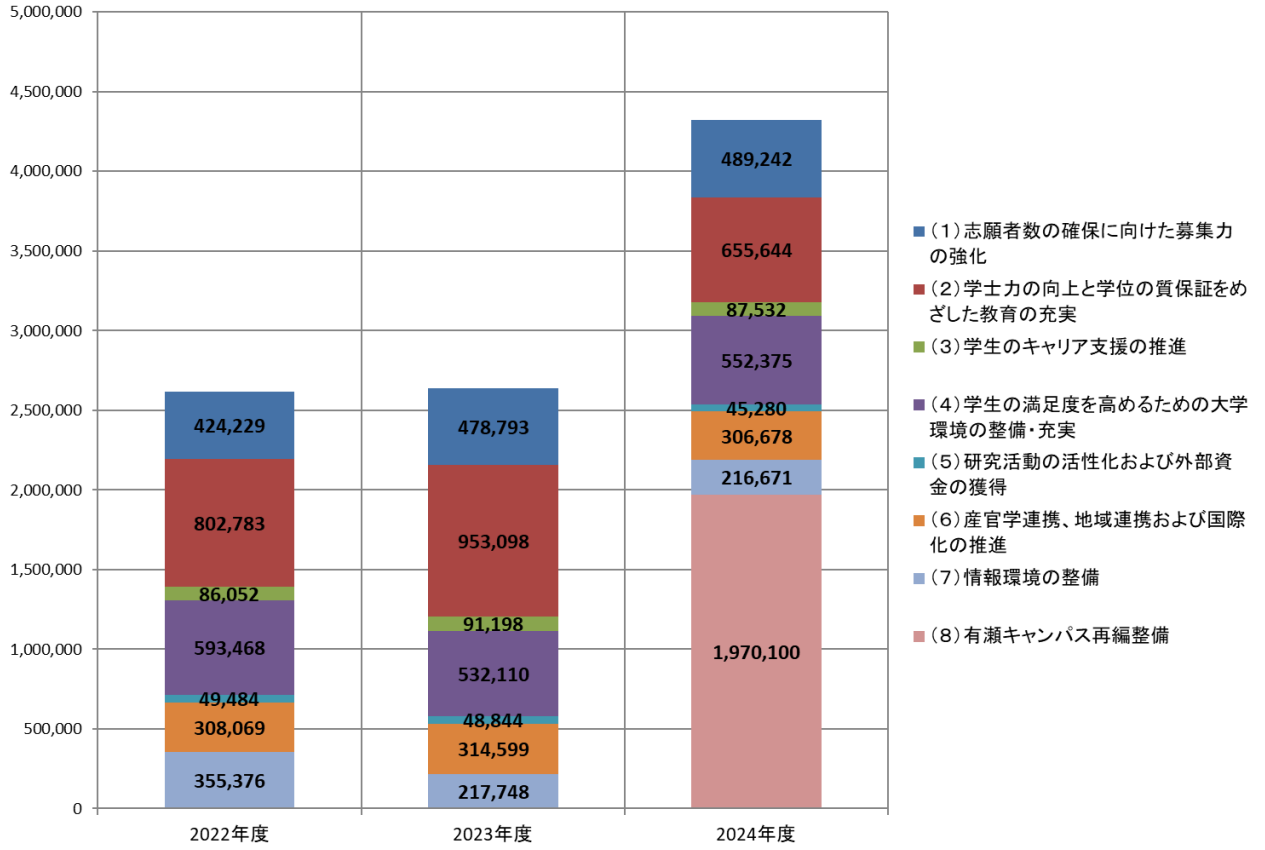
項目【総額】	内容	2024年度	2023年度
(1) 志願者数の確保に向けた募集力の強化 【489,242千円】	大学広報・入試広報	367,662	345,544
	○①交通広告・学外メディアを活用した広報	247,247	232,455
	②大学案内・大学紹介刊行物発行	48,905	49,205
	③ホームページの充実	5,700	7,700
	④オープンキャンパス、入試説明会等の実施	40,968	32,928
	⑤学部広報誌作成・学部ウェブサイトの充実	24,842	23,256
	志願者増加対策	121,580	133,249
	①ネット出願システム・受験ポータルサイトの活用	59,193	65,362
	②ダイレクトメール等を活用した募集力強化	39,847	45,347
	③志願者動向調査システム	22,540	22,540
(2) 学士力の向上と学位の質保証をめざした教育の充実 【655,644千円】	ICT活用による「教育・学修環境」の整備	294,852	529,865
	①教材データベース・教育ソフトの充実	43,171	40,446
	② e-learningの充実・教材作成支援	45,839	36,092
	③情報処理実習室、自習室の維持管理（更新含む）	205,842	453,327
	学部教育の充実	73,103	70,861
	①ゼミナール活性化およびアクティブラーニング含む教育システムの充実	52,785	51,041
	②教職教育センター	16,274	15,928
	③共通教育センター	4,044	3,892
	実験・実習体制の整備	222,053	246,505
	①心理学部実験実習費	10,071	10,289
	②現代社会学部実習関係費用	9,765	9,775
	③総合リハビリテーション学部学外実習関係費用	33,867	36,948
	④栄養学部学外実習関係費用	10,125	11,460
	⑤薬学部実習関係費用	158,225	178,033
	特色ある教育プログラム	27,221	30,387
	①スポーツサイエンス・ユニット	4,600	4,596
	②TKK学び合い連携事業	477	477
	③神戸学院カレッジ・English Plaza（い〜ぶら）	18,009	20,721
	④専門職連携教育（IPE）	4,135	4,593
	初年次教育の充実	8,173	39,217
①入学前教育・新入生基礎学力診断・初年次教育	4,377	35,432	
②新入生オリエンテーション・早期体験学習・ピアサポートの実施	2,798	2,903	
③初年次教育共通テキストおよび自校教育用教材の作成	998	882	
F D活動の推進	17,542	18,386	
①F D講演会等、F Dワークショップの開催	8,343	9,243	
②学生による授業改善アンケートの実施・分析	4,199	4,143	
③教育改革助成金	5,000	5,000	
大学院の充実	11,249	11,534	
①各研究科教育充実費	11,249	11,534	
教学マネジメント体制の構築	1,451	6,343	
①教学I R	1,451	6,343	
(3) 学生のキャリア支援の推進 【87,532千円】	キャリア支援の充実	60,615	64,171
	①キャリア教育の実施	25,048	25,651
	②ガイダンス・セミナーの実施	15,202	15,635
	③進路指導体制の充実	18,954	21,474
	④就業力講座の開講	1,356	1,356
	⑤インターンシップ	55	55
	課外講座事業	26,917	27,027
①課外講座の開講	26,917	27,027	

項目【総額】	内容	2024年度	2023年度
(4) 学生の満足度を高めるための大学環境の整備・充実 【552,375千円】	学内奨学金制度	124,530	164,330
	①学部支給奨学金制度	3,600	23,400
	②奨励金制度	64,070	64,070
	③大学院特別奨学金制度	10,660	10,660
	④大学院支給奨学金制度	1,200	1,200
	⑤特待生制度（未来サポート）	40,000	60,000
	⑥溝口奨励金制度	5,000	5,000
	シャトルバス運賃補助	25,000	35,000
	①シャトルバス運賃補助（KAC～KPC間）	25,000	35,000
	課外活動支援	204,403	202,454
	①課外活動・大学祭補助金	63,571	63,122
	②指定クラブ重点強化制度	119,100	117,500
	③技術指導者指導料・顧問旅費	21,732	21,832
	施設・設備の整備	187,761	124,045
①教室・実習室の改修	63,324	68,066	
○②厚生施設の改修・整備	91,642	53,979	
○③トイレの改修	8,600	2,000	
○④無線LAN・ネットワーク増設	20,000	0	
⑤コンビニ証明書発行サービス	4,195	4,918	
学生チャレンジプロジェクト・朝食補助	5,299	5,299	
①学生チャレンジプロジェクト	2,799	2,799	
②朝食補助	2,500	2,500	
退学防止および修学・就労支援プログラム	5,382	982	
○①学生の未来センター	5,382	982	
(5) 研究活動の活性化および外部資金の獲得 【45,280千円】	研究支援制度の確立	43,240	46,804
	①共同研究助成金	13,150	12,220
	②健康科学研究助成金	2,500	2,500
	③学外研究員制度	20,100	20,100
	④研究成果発表支援（研究叢書援助金）	7,490	11,984
学術研究高度化推進（人件費除く）	2,040	2,040	
①地域研究センター	2,040	2,040	
(6) 産官学連携、地域連携および国際化の推進 【306,678千円】	産官学連携の推進（人件費除く）	2,000	1,825
	①知的財産管理体制の構築	2,000	1,825
	地域連携・生涯学習の推進	89,095	83,308
	①ボーアイ4大学連携推進事業	2,814	3,620
	②リカレント教育事業	4,504	5,685
	③グリーンフェスティバル・公開講座	7,305	11,731
	④市民交流および地域連携講座等連携事業	28,220	23,396
	⑤総合型地域スポーツ・文化クラブ	9,076	6,192
	⑥災害救援ボランティア支援	4,500	4,500
	⑦カウンセリングセンター	1,368	1,476
	⑧神戸三宮サテライト運用	27,308	26,708
	◎⑨大学都市神戸産官学プラットフォーム	4,000	
	国際交流の推進（人件費除く）	215,583	229,466
	①国外客員教授受入	16,200	11,168
②私費外国人留学生授業料減免および奨学金制度	64,604	80,455	
③留学生の受入・派遣	30,686	34,687	
④短期海外研修	5,920	8,173	
⑤学部教育における国際化の推進	98,173	94,983	
(7) 情報環境の整備 【216,671千円】	ネットワークシステムの構築・管理	204,772	206,086
	①学内ネットワークシステムの維持・管理	149,864	151,437
	②事務システムの維持・管理	54,908	54,649
	図書館情報化の推進	11,899	11,662
①図書館システムの維持・管理	11,899	11,662	
(8) 有瀬キャンパス再編整備 【1,970,100千円】	有瀬キャンパス再編整備	1,970,100	
	◎①I号館建設事業	1,970,100	
合計		4,323,522	2,636,390

【計 4,323,522千円】

(重点事業予算額の経年比較)

(単位：千円)



※いずれの年度も当初予算額で比較

【高校】

(千円)

項目【総額】	内容	2024年度	2023年度
(1) 社会性、協調性、国際感覚の教育 日常とは違う環境に身を置き様々な経験を積むことによって幅広い視野養う 【12,826千円】	研修事業 ①短期語学研修：希望者 ②グローバルコース留学 ③修学旅行：中高一貫コースを除く ④中高一貫コース研修・修学旅行 ⑤宿泊研修・学習合宿等	12,826 1,665 5,488 2,850 1,770 1,053	13,055 895 3,558 3,835 3,740 1,027
(2) きめ細やかな教育 読解力の向上や、ipadを使ったアプリを使用することで本校の特色教育を推進 【1,400千円】	特色ある教育事業 ①速読英語・日本語トレーニングシステム	1,400 1,400	1,400 1,400
(3) 情報化社会への適応 めまぐるしく変化する情報化社会への対応力育成 【47,053千円】	ICT事業 ①生徒および職員に供するネットワーク等のシステム維持管理 ②ICTを活用した学習環境 ③職員が業務に供するPC等の維持管理費用 ④職員PC及びiPad更新 ⑤無線アクセスポイント・AD学務サーバ更新 ⑥基幹ネットワーク・資産管理サーバ更新	47,053 9,017 27,349 1,163 0 0 9,524	64,337 7,746 28,421 1,410 6,106 20,654 0
(4) 生徒の財政的負担の軽減 奨学金等による支援 【20,818千円】	奨学事業 ①溝口奨励金 ②森わさ奨学金 ③授業料減免 ④入学金等免除	20,818 4,374 4,536 5,184 6,724	21,304 4,536 4,860 5,184 6,724
(5) 教育環境の充実① スクールバスを利用した事業 【21,772千円】	スクールバス事業 ①生徒送迎費用	21,772 21,772	22,120 22,120
(6) 教育環境の充実② 防犯対策の実施 【2,968千円】	施設設備管理事業 ①警備業務委託費用	2,968 2,968	2,968 2,968
(7) 安定した募集定員の確保 広報活動全般 【16,438千円】	募集広告事業 ①広報活動費用 ②入試関係費用	16,438 14,823 1,615	16,329 14,364 1,965
合計		123,275	141,513

【計 123,275 千円】

【中学校】

(千円)

項目【総額】	内容	2024年度	2023年度
(1) 社会性、協調性、国際感覚の教育 日常とは違う環境に身を置き様々な経験を積むことによって幅広い視野養う 【1,639千円】	研修事業 ①宿泊研修・ネイチャーキャンプ(1年) ②広島サマーキャンプ(2年) ③修学旅行(3年)	1,639 534 305 800	1,717 516 426 775
(2) 情報化社会への適応 めまぐるしく変化する情報化社会への対応力育成 【10,950千円】	ICT事業 ①生徒および職員に供するネットワーク等のシステム維持 ②ICTを活用した学習環境 ③職員が業務に供するPC等の維持管理費用 ④職員PC及びiPad更新 ⑤無線アクセスポイント・AD学務サーバ更新 ⑥基幹ネットワーク・資産管理サーバ更新	10,950 1,726 7,107 327 0 0 1,790	14,508 1,402 7,429 346 1,455 3,876 0
(3) 生徒の財政的負担の軽減 奨学金等による支援 【3,240千円】	奨学事業 ①溝口奨励金 ②森わさ奨学金 ③授業料減免	3,240 1,134 1,134 972	3,402 1,134 1,134 1,134
(4) 教育環境の充実① スクールバスを利用した事業 【12,223千円】	スクールバス事業 ①生徒送迎費用	12,223 12,223	12,903 12,903
(5) 教育環境の充実② 防犯対策の実施 【557千円】	施設設備管理事業 ①警備業務委託費用	557 557	557 557
(6) 安定した募集定員の確保 広報活動全般 【7,500千円】	募集広告事業 ①広報活動費用 ②入試関係費用	7,500 7,300 200	7,788 7,488 300
合計		36,109	40,875

【計 36,109 千円】

〔Ⅲ〕基本金・引当特定資産の組入および取崩

《神戸学院大学》

Ⅰ. 基本金の組入

「第2号基本金」(5億円)

キャンパス整備資金として、2021年度～2024年度に各5億円を組み入れる予定です。

以上

【認証評価における指摘事項への対応】

本学は、2017年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、同協会の定める大学基準への適合が認定されました。その際、指摘を受けた努力課題と改善勧告については、改善報告書にとりまとめ、2021年7月末日までに同協会に提出いたしました。その後、2022年度3月末に同協会より改善報告書検討結果を受領いたしました。

（努力課題）

○ 教育内容・方法・成果

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

「総合リハビリテーション学研究所の教育課程の編成・実施方針が、修士課程と博士後期課程で区別されていないため、課程ごとに定めるよう改善が望まれる」と2017年度に指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科において、既に対応を終えています。

○ 教育内容・方法・成果

教育課程・教育内容

「法学研究科及び人間文化学研究所の博士後期課程は、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせているとはいえないため、課程制大学院制度の趣旨に照らし、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれる」と2017年度に指摘を受けましたが、指摘を受けた全ての研究科において、既に対応を終えています。

○ 教育内容・方法・成果

教育方法

- ・「経済学研究科博士後期課程では、在籍学生がいいため非開講となっている科目のシラバスが作成されていないので、改善が望まれる」と2017年度に指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科において、既に対応を終えています。
- ・「1年間に履修登録できる単位数の上限について、総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科では、1年次の前期・後期とも29単位と高く、2年次の前期では、29単位と設定されている。2年次の後期からコース分けがあり、これを受けて社会福祉士コースでは、2年次の後期から4年次の後期にかけて各学期とも29単位と高い。また、編入学生について、法学部法律学科では前期・後期とも2年次では34単位、3、4年次では32単位、経済学部経済学科では3、4年次において前期・後期とも28単位、経営学部経営学科では、前期・後期とも2年次では26単位、3、4年次では30単位と高いので、単位制度の趣旨に照らし、改善が望まれる」と2017年度に指摘を受けましたが、指摘を受けた全ての学部・

学科において、既に対応を終えています。ただし、教職課程をはじめとする卒業要件に含まれない資格課程科目については、1年間に履修登録できる単位数の上限に含めていないため、単位数の上限設定制度が形骸化しないよう注意しています。

- ・「薬学研究科において、研究科独自の教育の観点に特化したFD活動が行われていないので、改善が望まれる」と2017年度指摘を受けましたが、指摘を受けた研究科において、既に対応を終えています。

○ 教育内容・方法・成果

成果

「法学研究科修士課程及び博士後期課程、栄養学研究科修士課程、薬学研究科博士課程、食品薬品総合科学研究科博士後期課程において学位論文審査基準が明文化されていないので、課程ごとに『大学院履修要項』などに明記するよう、改善が望まれる」と2017年度に指摘を受けましたが、指摘を受けた全ての研究科において、既に対応を終えています。

(改善勧告)

○ 教育内容・方法・成果

教育方法

「法学研究科博士後期課程、栄養学研究科修士課程及び食品薬品総合科学研究科博士後期課程において、研究指導計画が策定されていないので、研究指導、学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に進められるよう是正されたい」と2017年度に指摘がありましたが、指摘を受けた全ての研究科において、既に対応を終えています。

以 上